

5. 経営上の障害

経営上の障害について、全産業の過去5年間推移をみると、前年度2位だった「人材不足（質の不足）」が49.0%で第1位となった。また、前年度第1位であった「販売不振・受注の減少」が41.9%で第2位となり、「原材料・仕入品の高騰」が34.4%で、第3位となった。

以下、「労働力不足（量の不足）」が25.0%、「同業他社との競争激化」が23.8%と続く結果となった。

第10図表 経営上の障害（複数回答、上位比率5項目：全産業）

	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
令和3年	人材不足 （質の不足） 49.0	販売不振・受注の 減少 41.9	原材料・仕入品の 高騰 34.4	労働力不足 （量の不足） 25.0	同業他社との 競争激化 23.8	
令和2年	販売不振・受注の 減少 53.3	人材不足 （質の不足） 43.9	同業他社との 競争激化 27.1	労働力不足 （量の不足） 21.4	人件費の増大 19.0	
令和元年	人材不足 （質の不足） 56.3	労働力不足 （量の不足） 37.0	販売不振・受注の 減少 29.9	原材料・仕入品の 高騰 29.9	同業他社との 競争激化 22.5	
平成30年	人材不足 （質の不足） 54.8	労働力不足 （量の不足） 37.8	原材料・仕入品の 高騰 29.7	販売不振・受注の 減少 28.2	同業他社との 競争激化 26.0	
平成29年	人材不足 （質の不足） 51.3	労働力不足 （量の不足） 34.7	同業他社との 競争激化 33.0	販売不振・受注の 減少 28.9	人件費の増大 18.7	

また、経営上の障害について、業種別にみると、製造業計では「販売不振・受注の減少」が48.2%、「原材料・仕入品の高騰」が46.6%、「人材不足（質の不足）」が45.8%と続くのに対し、非製造業計では「人材不足（質の不足）」が52.4%、「販売不振・受注の減少」が34.9%、「同業他社との競争激化」が32.3%と続く結果となった。

第11図表 経営上の障害（複数回答、業種別）

